

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4 年 3 月 22 日

事業所名 ぱすてる

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	0	必要に応じ、パーテーション設置等の工夫をしている。	
	2	職員の配置数は適切である	7	2	タイムスケジュールや活動グループなどを視覚化して児童にも情報提供を行なっている。	活動内容によりチーム分けする等で更なる工夫を凝らす。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8	1	ほとんどバリアフリー化されているが、段差のある個所は貼り紙、色を変えるなどで注意喚起し、都度声掛けもしている。	事業所の移転を視野に入れ改善を目指す。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	2	職員から出た意見をすぐ改善に向け相談できる体制がある。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	0	調査結果は必ず全員に周知され、話し合いの場を設けている。	今後は保護者への周知と関係づくりを強めたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	0		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	9		未実施 実施に向けた体制作りを法人として検討中。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9	0	外部研修他、オンライン研修の導入。	今年度導入したオンライン研修サービスが良かったので、ミニ会議中でも取り入れていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9	0	ミニ会議で情報を集積し、それに基づいて計画作成を行なっている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	1	サポートブックを保護者の方に配布し協力を頂いており、情報周知の工夫に努めている。	アセスメントシートの様式をより見やすく更新しやすいものに改め、今後さらに活用していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	1	担当者だけに依存しないよう、児童さんや他職員のリクエストを加え、皆でチェックしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	0		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9	0	個人目標にも取り組み、自立を目指せるようにしている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	9	0		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	1	前回利用時の様子も含め、前日に確認し合っている。	伝達漏れがないよう、メール等のツールも用い情報共有を徹底していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	1	翌日の準備中にその日の様子を話したり、朝礼で申し送りをしている。	伝達漏れがないよう、メール等のツールも用い情報共有を徹底していく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9	0	児童の状況に合った計画となるよう日々の情報共有を行う中で判断し見直している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている ・自立支援と日常生活の充実の為の活動 ・創作活動 ・地域交流の機会の提供 ・余暇の提供	8	1	日常生活動作の支援だけでなく、季節の行事や様々な余暇メニュー、創作活動など準備し、個々にあったサービスを提供している。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	0		

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8	1	学校の先生方にも大変手厚くご協力頂いている。	今後も今以上にこちら側から質問・相談する機会を持ち、連携を大切にしたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	7		対象児童なし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	9	0		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	5	中高生の事業所へ移行される際に情報提供できる準備はある。	(小・中学生対象の事業所の為、該当なし)
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	8		コロナ禍で児童発達支援センターの研修は参加なし。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	9	0		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	8		未実施 →理解を深め検討したい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	9		未実施 →相互理解を深めるためにも、実施に向けた取り組みを検討していく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	1	保護者の方からの質問には都度対応し、わからない事も職員間で話し合い、必ずお返す。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	9	陶芸教室を親子行事として実施、交流の場を作ることができた。	次年度は保護者同士の意見交換がより促進できるよう企画を検討する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9	0		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	0	・事業所広報(毎月) ・活動プログラムと利用希望表(毎月) ・法人機関紙(年3回) ・誕生日カード ・個人のご様子を写真にコメントを添えて報告(毎月)	
	35	個人情報に十分注意している	8	1	・データ管理、情報発信について担当者が責任をもって管理。 ・守秘義務など、行動指針の唱和。	体制として徹底しているが、制度や基本方針の再確認などを行い認識を深いものとした。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0		
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	8		コロナ禍で難しいものとなっているが、親子行事と同様、実施に向けた検討を進めたい。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	2	法人共通の各種マニュアルに加え、事業所の消防設備等について内部研修を実施している。	全職員、保護者にも周知徹底できるよう機会検討する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	0		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	5	今年度はオンライン研修サービスを導入して実施。	全職員に認識が行き渡るよう適切な指導環境を整える。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8	1	専門性を高める為、法人内委員会と連携して、事例検討など職員同士が話し合い、確認し合える機会を持っている。	職員全員が身体拘束に関して共通認識を持ち支援に当たれるよう、今後も取り組みを継続していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	3	保護者の方を通して説明を受け対応している。	現在は該当者なし
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	0		